

「英語話題」

今年の最後に、冠詞についての説明と数量の表現の感覚について書いてみようと思います。まず、不定冠詞の“a/an”と定冠詞の“the”の使い方です。

私が受けた学校教育では、“a”は、「ひとつの」で、“the”は「その」と訳すと習いましたが、実際の英語のニュアンスとしては、“a”は、「ひとつの具体的な、または任意のモノで、特定のモノではない」ことを表し、“the”は、「話し手も聞き手も特定できるひとつのモノ」を表しています。

例えば、「昔々、あるところに (a) おじいさんがいました。(The) おじいさんは山へ芝刈りに行きました。」のように、最初の「おじいさん」は特定できるおじいさんではなく、何となくひとりのおじいさんを話し手も聞き手もイメージを持って、その次では、そのイメージした特定の「おじいさん」が山へ行ったことを意味することで、日本語ではわざわざ「ひとりの」とか「その」は使いませんが、英語で書いたり話したりする際には、これら冠詞を使うこととなります。

不定冠詞“a”の具体的な用法や意味としてはいくつかあり、その違いの説明を試みてみます。

- ひとつの具体的なモノを表す“one”に近い用法で、複数を表すには some (two, a few, many, etc.)がある。
There is **a book** on the table. (1冊の本) There are **some books** on the table. (いくつかの本)
上記の there is/are や I have, I want, I'll give you などに続く場合は、“a”か複数を表す語が必要となるが、漠然と多数を表す場合や数量よりもモノ自身に焦点を置く場合などは some などをつけない。
His face was covered with **beads** of sweat. 「玉のような汗」
You can find **back numbers** of the magazine at the library. 「雑誌のバックナンバー」
または、時間や距離で「何日 (週、マイル)」などの場合にも some などの複数を表す不定冠詞をつけない。
She would often stay away from home for **days**. 「何日間も」
Weeks passed and still I had no news. 「何週間もたったが」
For **miles and miles** there was nothing to be seen but desert. 「何マイルにもわたって」
- 不定のあるひとつのモノを表す場合に、不定冠詞の意味は軽い“any”に近く名詞によって表されるモノ全体を指しているため、複数形でも“some”などをつけて数を表現はしない。
A table has four legs. **Tables** have four legs.
- per や for each などの「～につき」は、「ひとつ」の意味から派生した使い方
An apple **a day** keeps the doctor away. 「1日にりんご1個」
You'll be paid a hundred dollars **a week**. 「週給\$100」
- 距離や時間などで some に近いニュアンスを持つ不定冠詞“a”
God is watching us from **a distance**. 「遠くから (離れて)」 有名な“From a distance”の歌の歌詞です。
He was speechless for **a time (while)**. 「しばらく」

定冠詞“the”の具体的な用法や意味としては、実は様々な用法があり、その違いなどを書き記すのは結構大変なのですが、できるだけ整理して下記します。

- 何を指しているかがすぐにわかる特定のモノや、前後関係によってわかるモノなど、上述の (the) おじいさんなど。
We are going to start new business. **The plan** was suggested by our leader. (その案は明確に何かわかる)
Please shut **the door**. (その部屋のドアとわかる)、I'm going to **the post office**. (近所の郵便局とわかる)
- 常識で考えて唯一のモノを指す場合
the earth, the sun, the moon, the world, the north, the right, the left, the President, etc.
- 修飾語句の only, first, last, same などや形容詞の最上級がつく場合は、それだけで特定化されるので
This is **the only example** I can give. (ただひとつの例)
- 修飾語句が伴うことで特定されられる場合の例

He is **the principal** of our school. (ひとつの学校に校長はひとりなので)

※ He is **a teacher** of our school. (先生は学校にひとりではないので、特定しないことで the はつかない)

・ 総称的な用法として、the + 普通名詞 で多少抽象性を含めたその種属全体を代表する場合

The horse is fun to ride. (馬 (一般) を表現して乗馬は楽しい)

The Internet has changed our life. (インターネット環境全体を指して)

・ 抽象的な用法として、the + 普通名詞 で上述の抽象性をさらに強調して表現するような場合

She felt **the mother** rise in her breast. 「母性愛が胸に湧き上がった。」

She acts **the queen** wherever she goes. 「女王気取り」

また、the + 形容詞 で名詞的用法として使う場合

The rich are apt to look down on **the poor**. (rich people や poor people の代わり)

・ 総括的な用法として the + 複数名詞 でその名詞の示すものの全体を表現する場合

He is the only boy and **the others** are girls in the group. (一人の少年以外は全員)

・ その他で定冠詞 the を使う場合

普通名詞の組合せ: the Pacific Ocean, the Red Sea, etc. (Ocean を省略して the Pacific も同じ意味)

固有名詞 + 普通名詞: the Sahara Desert, the Japan Sea, etc. (Desert を省略して the Sahara も同じ)

of ~がつくもの: the Bay of Tokyo (= Tokyo Bay), the Cape of Good Hope, etc.

複数形の固有名詞: the United States, the Alps (アルプス山脈), the Hawaiian Islands, etc.

公共の建物・施設: the Empire State Building, the Diet Library, the Ueno Zoo (Zoological Gardens), etc.

ここまで書いてみましたが、明確なルールで使い分けようにはなっていないかたりするので、これらの使用法を身につけるには慣れるしかないように思います。悩んだ時は、他の文献を参照したりして不定冠詞、定冠詞、無冠詞を使用する際のニュアンスを身に付けることが必要になるかと思えます。

最後に数量表現においてその多さのニュアンスについての表現方法と違いを、下の表に纏めてみます。文脈によって微妙なものもありますが。。

	加算名詞	不可算名詞	備考
多い ↑ ↓ 少ない	too many	too much	多過ぎる のニュアンス
	so many	so much	とても多い
	a ton of / tons of		thousands of (数千の)、hundreds of (数百の)、dozens of (数十の) なども対象での使い分け可能
	a bunch of		
	a lot of / lots of		
	plenty of		十分な数量 のニュアンス
	many	much	
	quite a lot of		a lot of より少なめのニュアンス
	quite a few of		わりに多いとのニュアンス
	a dozen of	-	12 を表現
	some		
	several	-	3 ~ 9 を表現
	a couple of	-	2 ~ 3 を表現
	a few	a little	少数の や 少しの ニュアンス
	few	little	ほとんど無いこと / ほんの少しのニュアンス
	hardly any / almost no		

今回はここまで。この雑談は暫く休載として、何か面白いことや気になったことがあった際にまた掲載します。